

平成24年度公立大学協会図書館協議会研修会
御所西 京都平安ホテル(2012.9.7)

真正の学習支援につながる 情報リテラシー教育 —何を知り、どう実践すればよいのか—

同志社大学企画部・企画課長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp



本日のまとめ

1. 高等教育改革とFD推進の文脈のなかで
大学図書館の学習支援を捉える。
※授業改善, 授業外学習の質の保証 [《教職協働》](#)
 2. 「人はどう学ぶのか」=学習理論に立脚した
情報リテラシープログラムを開発する。
※学習科学・教育工学との接点 [《連携の共通言語》](#)
 3. アクティブ・ラーニングの手法を取り込み、
学習成果を生むプログラムを開発する。
※[《アクティブ・ラーニング型情報リテラシー教育》](#)
-

教育開発・実践センター
FDer / Instructional Designer

図書館
図書館員

高等教育論の知見
教育方法論の知見

図書館情報学の知見



図書館が提供する
情報資源

教育理論

学習科学

教育学

教授法

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

分類

目録

独自のスキル

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用
学習成果の引出し方が上手

図書館のみ論理では・・・
テクニカルサービスの終焉! ?



学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座（全11回）. Beating（メールマガジン）.

2005, no.11 - 2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html>（参照 2012-01-20）

※連載内で紹介されている文献すべて

中原淳, 金井壽宏. リフレクティブ・マネージャー：一流は常に内省する.

光文社. 2009

井上真琴. “大学図書館の学習支援”. 平成23年度大学図書館職員長期研修配付資料. 2011. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2011/17.pdf>（参照 2011-10-4）.

井上真琴. なぜ，ラーニング・コモンズが注目されるのか．私立大学図書館協会会報．2011, vol.135, p.73-87.

井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8, p12-13. http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/backnumber20091110.html（参照 2011-09-26）.



I. 教育から学習支援へ

図書館の考える「学習支援」の限界

- ▶ 大学コンソーシアム京都での連携FD担当
- ▶ 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- ▶ 図書館での情報リテラシー教育の欠陥
＝「情報を使って、学習成果(アウトカムズ)を出すプロセス全体を指導・支援するサービス」
になっていない。

アクティブ・ラーニングを取り入れた
情報リテラシー教育プログラムの開発が焦点



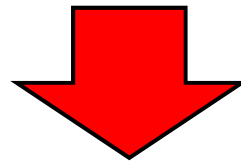
I. 教育から学習支援へ

教育から学習支援へ

教育コンセプトの転換

「知識の伝授」(授業)

Professor = Profess《告白》する人 ×



学習者自らの「**創造性開発**」(学習支援)

※教育(=授業) と学習支援が対等な関係



I. 教育から学習支援へ

学習支援にシフトした背景

▶ 高等教育のグローバル化

高等教育の国際通用性 (教育の質保証)

Learning Outcomes重視: 「~ができるようになる」

授業外学習の質の転換

▶ 高等教育のユニバーサル化

全入化と18歳人口の減少

▶ 社会の情報化: 知識基盤社会

知識の「注入」よりも, 知識の「創造性開発」



I. 教育から学習支援へ

押えておくべき「答申」類

▶ 2012年8月28日

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて
生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (参照2012-09-04)

▶ 2012年3月24日

中央教育審議会大学分科会大学教育部会「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考
える力を育成する大学へ(審議まとめ)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm
(参照2012-06-09)

▶ 2008年12月24日

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
(参照2010-09-25)

▶ 2010年12月3日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
「大学図書館の整備について(審議のまとめ): 変革する大学にあって求められる大学
図書館像」 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/documents/singi201012.pdf> (参照2012-06-08)



I. 教育から学習支援へ

◎科学技術・学術審議会 学術分科会

研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)

—変革する大学にあって求められる大学図書館像—

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

(3) 大学図書館に求められる機能・役割

①学習支援及び教育活動への直接の関与

2. 大学図書館職員の育成・確保

(2) 大学図書館員に求められる資質・能力等

①大学図書館職員としての専門性

②学習支援における専門性

③教育への関与における専門性

④研究支援における専門性



I. 教育から学習支援へ

例えば,単位の実質化

単位 : Credit (信用！)

1単位の授業科目は,標準的に15時間の授業と30時間の準備学習や復習の時間を合わせて45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。

大学評価・学位授与機構

『高等教育に関する質保証関係用語集』

http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/package/no9_21_niadue_glossary_2009.pdf

(参照2012-07-08)

※文部科学省の「大学証明」での不安(詐欺の片棒を担ぐ?)



I. 教育から学習支援へ

FD活動の活発化と研修内容

FD(ファカルティ・ディベロップメント) =
教員の組織的な教育力向上に向けた持続的な活動

- ▶ わかりやすいシラバスの書き方
- ▶ 授業デザインを学ぶ
- ▶ 授業アンケートのフィードバック方法
- ▶ クリッカーを利用した効果的な授業実践
- ▶ PBL,TBLの授業(ファシリテーション)方法
- ▶ 学生のやる気をださせる話し方講座
- ▶ よい学習行動を導く「課題の与え方」

I. 教育から学習支援へ

新しい教育手法の推奨

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法(アクティブ・ラーニング)を重視し,例えば,学生参加型授業,協調・協同学習,課題解決・探求学習,PBL (Problem/Project Based Learning)などを取り入れる。大学の実情に応じ,社会奉仕体験活動,サービス・ラーニング,フィールドワーク,インターンシップ,海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても,教育の質を確保するよう,大学の責任の下で実施する。

中教審「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」(2008)

Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育



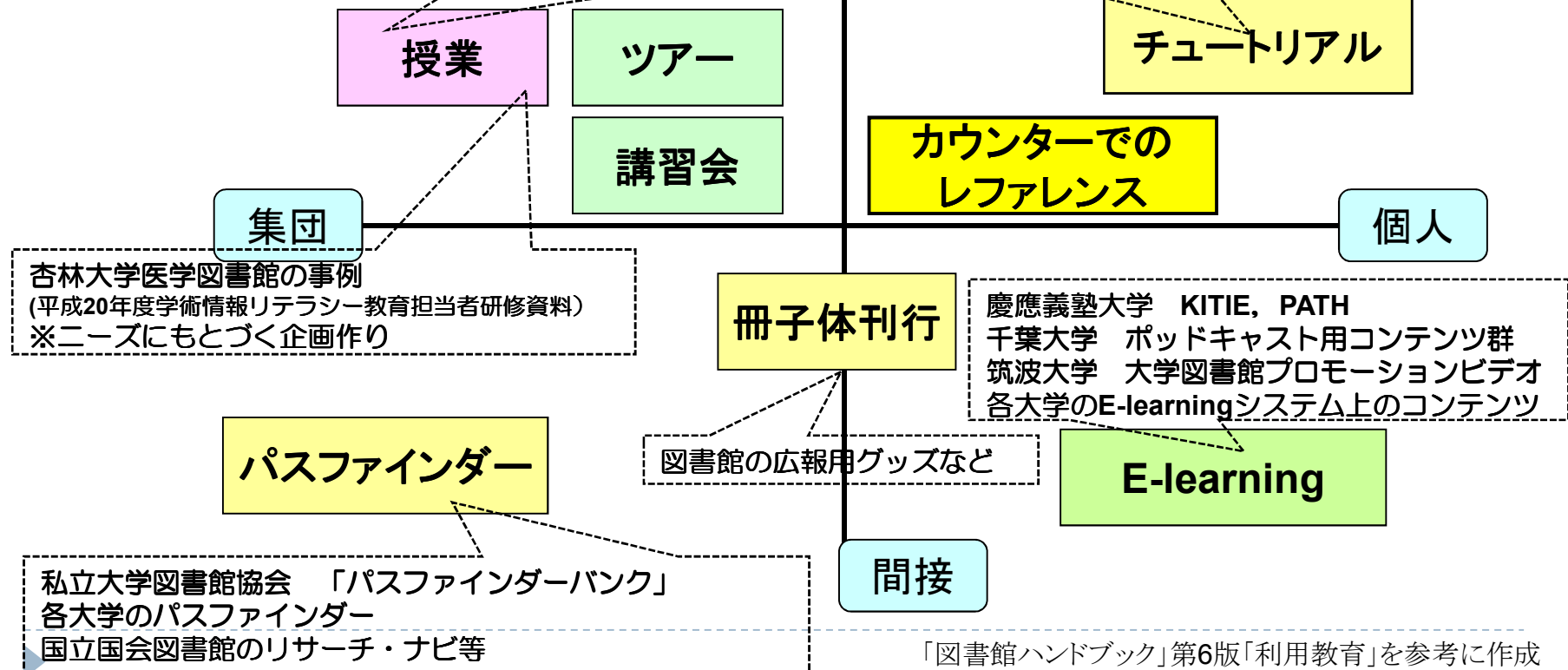
学術情報リテラシー教育のいろいろ

■ 現在の大学における情報リテラシー: 代表的な実践例

平成21年度大学図書館職員短期研修テキストより引用

京都大学 全学共通科目「情報探索入門」
東北大学 全学教育科目「大学生のための情報検索術」
明治大学 特色GPの「図書館活用法」

お茶の水女子大学 現代GPとの連携
東京女子大学 学生支援GP「滞在型図書館」
大阪大学 ラーニング・コモンスのTAの支援
名古屋大学 ラーニング・コモンスのライ
ティングセンター




「図書館ハンドブック」第6版「利用教育」を参考に作成

Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。

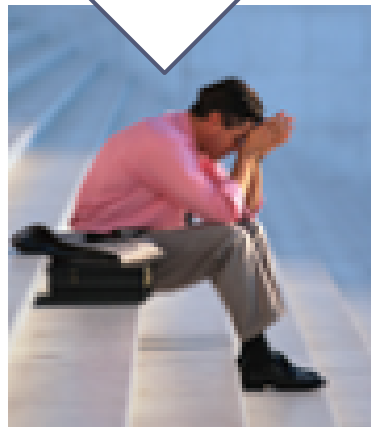
野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

アクティブラーニングの手法を 情報リテラシー教育に取り込めるか

2000年～2005年頃のALAの議論
情報リテラシー教育をアクティブラーニングで、
展開できるかどうか。



何が必要なのか？

Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は、つまるところ、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように構造化されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分の成果を撮取して学んでくれるかを知っている。

また、どのような作業や判断においても必要な情報を見つけてることができるので、生涯を通じて学んでいく。

*ALA, Presidential Committee on Information Literacy,
Final Report (1989)*



Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

欧米と日本の学習支援スタッフの違い

学習支援に必要な能力

1. 支援するひとが、インストラクショナル・デザインや学習環境理論を知っている。
2. 教授法・教育手法をはじめ、学習理論＝「人はどう学ぶのか」を学んでいる。

※正統的周辺参加，認知的徒弟制，アンカードインストラクション，ジグソーメソッドほか

上記のことに基づいた企画，設計，運営



Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

Blended Librarian, Embedded Librarian(に学ぶ

▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術, 授業設計技術, 教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2011-06-06)

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ, 利用者が活動している場から, 利用者と活動とともにしつつ情報サービスを提供している図書館員。
ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき, 情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを, 学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

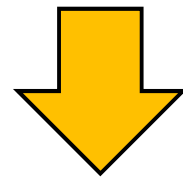
鎌田均. エンベディッド・ライブラリアン: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.



Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

学習(学ぶ)とは何か

- ▶ 日々得る情報(モノからヒトから)を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



Fabulous!!

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー
「情報リテラシー教育」(2009. 12, 大阪会場)

Ⅱ. 学習支援としての情報リテラシー教育

学習(学ぶ)とは何か ≡ 情報リテラシー

